

## 平成25年度8月期 居宅介護支援部会 議事録

開催日時：平成25年 8月 23日（木） 18：30～20：30

開催場所：足立区役所 14階 レストランピガール

参加事業所： 35事業所

参加人数： 63名

式次第：1、ご挨拶

(居宅介護支援部会 弓狩部会長)

2、精神科医療の現状について

(東京足立病院 看護師 吉本 斉 氏)

3、交流会

議事録：

1、今回は、前半は部会のような形（東京足立病院の吉本様に精神科の現状でお話いただく）をお願いしました。通常は北千住で、暑い中集まって頂き飲み会を開いてきましたが、それだけでは？との意見もあり、2部構成にしてみました。前半は頭を使い、後半は交流という時間でフリフレッシュして頂けたらとおもい構成しました。非常に暑い日が続いておりますので、訪問にでるのも苦しい所です。今後の介護保険動向については注目もあり、軽度者の保険から外れる・特養は介護度3～5の対象・生活保護費の減額等で、来年以降も見据えた話題を考えております。

2、精神科医療の現状について

訪問看護とケアマネの兼務を経験しています。訪問看護部会に参加していました。精神科の患者さんの印象では、ご家族も疾患を持っている方がいます。とつきにくい・・・コミュニケーションがとりにくくなる。幻覚等の症状がでると、うつ症状もやすい。自殺者も年間3万人を超えている状況です。まずは、その距離感を縮めてほしいと思います。精神障害の歴史では、昔はそういう症状を人に見せたくない流れがあった。過去に暗い事件が起こり、精神衛生法で改正があった。精神保健法は病院から社会復帰にかわっていった。今現在は、精神保健福祉法でリハビリ強化の流れとなっている。

療養病床の削減は6年凍結となっています。ベットは減っていない状況。入院歴が長い問題は、入院1年～3年以内が、受け入れの条件で何らかの形ができ、退院していこうとの数字がある。地域への移行は集団生活から共同、独立へと流れていく。家族がいなくて単身であるとアパートの問題とかなり苦労される。入院治療が不要な者がなんらかのアプローチで自宅へ戻っていく支援がある。

精神科としては薬物療養が主体で、飲み続けるのが大事である。薬を意図的に切るのは、再入院が多い。服薬管理は重要な要素である。服薬の具体的な対応として、皆さんはカレンダーや声かけで努力をしているサービスをしています。精神科では、薬を飲まない事で適切な判断をしてもらえなく、定期的な受診は大切。本人の生活パターン・変化での薬を飲んでいるか？見て行くのが重要。副作用がわかれば主治医に報告し緩和できる。これでやめてしまわないようにしてほしい。飲めていない事があつたら、見もり体制等のマネジメントが必要。会議での状況は情報共有があるとよい。精神科の薬は進んでいて、薬ではなく注射の方法もでている。平成25年より5疾病・5事業で国が進めていくのをきめている。地域支援で必要な事は、高齢化の対応。退院は特別養護も多い。自立支援法にしたがい、今後、皆さまと同じ動きをする方があがっている。未治療の方の対応も必要。家族の健康や悩みを受けて行くのが大切。地域住民の理解で偏見があるので、このような対応で問題ないと伝えて行くのがよい。精神障害保健・福祉に関心を持って協力をえていきたい。

#### <アンケート集計報告>

##### 1、今回の勉強会のテーマ・内容について

大いに参考になった・・・13名  
参考になった・・・21名  
どちらでもない・・・3名  
参考にならなかった・・・0名

##### 2、勉強会を兼ねた交流会について

新鮮でよかった・・・13名  
よかった・・・18名  
どちらでもない・・・2名  
勉強会と交流会は別の方がよい・・・3名

##### 3、交流会の飲食について

満足・・・24名  
もう少し量がほしい・・・3名  
種類がほしい・・・6名  
その他意見（座りたい）・・・1名

#### 4、交流会時期について

7月中旬・・・2名

7月下旬・・・1名

8月中旬・・・19名

8月下旬・・・9名

#### 5、交流会についての感想

講演は30分でもったいない内容だった。

座りたいのと、喫煙できるお店がよい。

今、精神科の悩みがあったので、よいきっかけとなった。

多くの交流ができ楽しかった。

30分の講座発想がよい。